会　　　議　　　録

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 会議名 | 令和３年度文化によるまちづくり推進委員会（第３回：第１部会） | |
| 開催日時 | 令和３年１１月１９日（金）　１８時～２０時 | |
| 開催場所 | 市役所２階　庁議室 | |
| 出席者 | 竹内　道子（部会長）、廣田　由実、原　雅典、  城戸　邦之、岸田　茂 | 委 員 数　６人  出席者数　５人  欠席者数　１人 |
| 欠席者 | 池上　雅代 |
| 事務担当課  及び職員 | 市民部文化スポーツ推進課  市民部：芳司参与  文化スポーツ推進課：石田課長、丸田 | |
| 会議次第 | １　開会  ２　（次第１）鑑賞機会の充実  ３　（次第２）拠点としての施設のあり方  ４　閉会 | |
| 委員  （岸田）  部会長  （竹内）  委員  （廣田）  委員  （岸田）  部会長  （竹内）  事務局  委員  （城戸）  委員  （岸田）  事務局  委員  （原）  委員  （岸田）  事務局  委員  （原）  委員  （城戸）  委員  （原）  部会長  （竹内）  委員  （岸田）  部会長  （竹内）  委員  （岸田）  事務局  委員  （原）  委員  （城戸）  部会長  （竹内）  事務局  委員  （原）  部会長  （竹内）  事務局  委員  （岸田）  部会長  （竹内）  委員  （岸田）  部会長  （竹内）  委員  （廣田）  事務局  部会長  （竹内）  委員  （岸田）  委員  （原）  事務局  委員  （城戸）  委員  （岸田）  事務局  委員  （岸田）  委員  （原）  委員  （岸田）  事務局  委員  （岸田）  委員  （城戸）  委員  （岸田）  事務局  委員  （岸田）  事務局  委員  （廣田）  委員  （岸田）  委員  （廣田）  委員  （岸田）  部会長  （竹内）  委員  （岸田）  部会長  （竹内）  委員  （岸田）  部会長  （竹内）  委員  （岸田）  委員  （廣田）  部会長  （竹内）  部会長  （竹内）  委員  （廣田）  事務局  委員  （廣田）  部会長  （竹内）  委員  （岸田）  事務局  委員  （岸田）  委員  （城戸）  委員  （廣田）  委員  （岸田）  委員  （廣田）  委員  （岸田）  委員  （原）  委員  （岸田）  事務局  委員  （岸田）  事務局  委員  （原）  事務局  委員  （城戸）  委員  （岸田）  事務局  委員  （城戸）  事務局  委員  （岸田）  部会長  （竹内）  事務局  部会長  （竹内）  委員  （原）  部会長  （竹内）  委員  部会長  （竹内）  委員  （廣田）  部会長  （竹内）  委員  （廣田）  部会長  （竹内）  事務局 | **次第１　鑑賞機会の充実**  芸術を届ける活動「アウトリーチ」が大切と考える。民間店舗とも連携し、イベントに参加できない人にも芸術を届け、民間イベントの盛り上がりを市のイベントにも取り入れたい。  “このまちで行われるイベント”という視点で民のイベントもすべて市で情報を集約し発信してはどうか。そうすれば、それは市の財産になると思う。  市が行っている子ども文化ふれあい事業は、新型コロナウィルス感染症が落ち着いた時にはぜひ以前のように全小学６年生が不二輸送機ホールに集まり、質の高い多様な芸術に触れる方式に戻して欲しいと感じる。アウトリーチ形式であれば、芸術家の派遣事業等、他にも似た事業があるのでそちらを活用することもできる。先ほどの民間がしているイベントも市が把握して広くＰＲできればと思う。イベントのチラシを市に持って行くと市の方で周知してもらえる環境を整えて欲しい。みんなが楽しめる環境が必要。  年度ごとではなく向こう１年先のスパンで発信するのがよい。主催者側も参加する側もそこにアクセスしやすいと思う。そして終わったら自動的に消えていくようにしたらどうか。  市はどうしても年度管理だが、１か月が終わると次の１か月を足してもらえると幅広く情報収集できると思う。何月にどこでどんなイベントが開催されるか集約されるだけで随分違うと思う。  よく終わったイベントの紹介がそのままホームページに残っているが、一方でこれからどんなイベントがあるかは全く分からない。出すべき情報が逆転していると思う。  市の防災メールに登録していると色々な情報が入ってくるが、あのような形で情報がどんどん入ってくるシステムがあるといいと思う。登録していたら少し割引になる仕組みを取り入れてもいいと思う。  そこをクリックするとイベント情報の詳細にたどり着ける仕組みがあればと思う。  コンサート会場などで連絡先を記入するのは好まれないという話がある。その代わり、ＬＩＮＥが活用できるのではという話があった。  ＬＩＮＥに登録してもらい、加入した人には色々な情報が入ってくる仕組みをつくればいいと思う。問題は誰がインセンティブを持ってするのかという点が一番難しいと思う。  市内のラジオ局がいいと思う。ラジオ局なら若い人材が活用できる。  職員ではなかなか難しい部分があると思うので、そのようなことを委託すればしっかりやってくれる組織や仕組みを今後考えていくことは、情報発信をしていくうえで不可欠だと思う。  民間の情報を総合してまとまればいいと考えれば、ホームページに書き込みの権限を与え自由に書き込んでもらい、自分たちで発信する形もひとつの方法と思う。  学校でも発表や研究会などで人を集めたい時は、教科書会社のホームページに発信できるページがあるので、登録して利用している。そこを活用すれば、情報を見た他県の人も来てもらえる。  ある程度信頼のできる主催者が入力する方法がいいと思う。  ネット上での情報のやりとりだが、子どもたちが行ける場所でのアウトリーチはどうか。  縄地ヶ鼻公園や江汐公園で音楽を組み合わせることが大切と思う。せっかく人が集まっているのであれば、その場所を会場にするなどコラボしたらどうか。また、住吉まつりの山手クラブでしているイベントに市が関われば、レベルはグンと上がると思う。  江汐公園でお祭りがあると必ず発表の場があるが、地元の子ども、大人の発表の場となっている。こうした場にすごい人を呼べると違うと思う。  素通りする人の足を止める仕掛けをすれば、発表の場もいきてくると思う。今年の江汐公園まつりに須恵小学校が出演し、かなりの人が聴いてくれたが、終了すると会場に残る人はほどんどいなかった。ここを考えないといけないと思う。  よく見る光景は、イベントを楽しむのではなく自分の子どもや孫を記録するために来ている人が多いこと。そうではなく、そこにある色々なものを楽しんでもらうことが大切と感じる。  どういう場に参加して、どういう人がいるか知り、自分の好きな人がくることで段々興味を持ってもらう入口になるかもしれない。  いろいろなものを組み合わせることはすごくいい案である。先日青年の家であったプラネタリウム見学会でもミュージシャンのコンサートをしたり、マルシェを呼んだり、子どもたちは遊んでいたりと世代によって関心を持つポイントが違うので、いろいろなものを組み合わせるとみんなが楽しめていいなと思う。  ある分野の人を呼びたい時に市にルートなどを相談できる仕組みがあるとよい。  人材を紹介できるネットワークを作っていかないといけないし、コーディネーターのような人もいるかなと思う。  ホームページなどでも文章は前の方に比重を置いた文章を持ってこないと受けない。見出しだけ読んでその内容を理解した気分になる人が結構多く、どうやって一般の人を惹きつけるかが重要である。  いろんな分野で長けている方がいるので、そういう方をアドバイザー的な立場でご相談できるようなつながりも作っておいた方がよい。  委員のみなさんにしてもそれぞれ得意な分野があるので、何かの時には調整できると思う。これが必要な時はこの人に相談してみようという人脈が必要。  こういうイベントをしたいがふさわしい人を紹介してくれないか、という相談を私は何回かいただいている。予算からそれに見合った人を紹介すると結構うまくいく。  人材にしても施設にしても結構知らないことが多いですね。特に人材に関しては山陽小野田市出身の方で活躍している人が多くいるので、近隣市町を含め洗い出してみることが必要では。美祢市出身のジャズのベースを弾く権上さんなど、面白い人材だと思う。ジャズを始めたきっかけは小学校でマーチングバンドをされていて、それがベースにかわり、音大まで行かれて、ジャズのベースを演奏されるようになったと。音楽に限らず小さい頃に色々な経験をさせることがとても大切だと感じた。  アウトリーチはとてもいいツールだと思う。もっと有効に活用すべきだ。常連客だけでなく誰でも参加しやすい入場料設定などの仕組みをどのように作るかが大切。  文化会館でされているファミリーティータイムコンサートは、参加しやすい入場料だが、とてもいいメンバーと思う。  一般向けコンサートが午前中でお子様向けが午後から。同じ出演者で２回コンサートをしていただいている。すでに通算５７回を迎え、１０年を超えた。子どもたちがとても釘づけで観ている。  非常にいい企画をいろいろしているが、みなさんの手に入らない情報がたくさんあると思われる。  とりあえず市内でされている情報をとりまとめるのが一番。  先ほど言われた、主催者がイベントを書き込みできる仕組みがよい。そのために、クリックすると詳細につながるプログラムを作らないといけない。  担当者が作るのではなく、主催者本人が作る形が一番手っ取り早い。それによって利益を得られる人がするべきと思う。  レジュメの「日常的に芸術文化を感じられる環境づくり」と入れているが、「集める」「届ける」とも子どもたちが文化に触れるきっかけになる、今回のビジョンのメインターゲットは子どもと思っている。大人は自分で探す術があるが、子どもは自分でどうこうできない部分がある。小さい時の生活環境に文化に触れられる仕組みがあれば、より子どもにいい刺激になるのではと思っている。例えば親が音楽家の子どもはその道に行くことが多いが、それは小さい頃からそういう環境で馴染んでいるからということも考えられる。文化芸術に携わることで心の豊かさが育つことも大いにあると思うが、どうだろうか。  芸術や音楽に関心があることは心や創造性が豊かになっていくし、今の学習指導要領は、生きる力を身に着けるだけでなく、それを表現できる、アウトプットする力まで求められている。文化祭などを通じて人前で表現させることもしているし、埴生公民館の廊下がギャラリーになっていて地域の方の絵画作品が飾ってあり、子どもも放課後に立ち寄ったりと非常にいい環境だと思う。  ご指摘の点は、日本は異常に遅れていると思う。芸術文化に触れる機会に関して、各国と比べ力を入れている度合いが違う。豊かさとは、自然環境、社会インフラ、社会制度、人づくりと４つに分かれている。日本はインフラなどは先行しているが、ひとづくりが世界の中で下位に位置している。例えばアメリカでは大学で年間40回コンサートや演劇をする。ヨーロッパもそうだが、日本はほぼゼロである。この差が社会人になって歴然とした差として出る。私の知っている会社でも残念ながら日本人は使い物にならず、管理職はほとんどいないという厳しい現実がある。  何が違うのか。  例えばハーバード大学はリベラルアーツの最たる学校である。イエール大学も同様に、教授ひとりにつき4人が一緒に聴きにいき、前後で話し合いをする。年間40回、ほぼ毎週に及ぶ。彼らは勉強もしつつ、さらにそのような活動をしている。これがいわゆるリベラルアーツ、教養哲学であり、これのありなしがその人の価値となっていく。  それは教授の評価が論文を出した本数などで決まるのではないか。  アメリカのある大学は授業はすべてインターネットで行われ、数日後にテストがある。授業のなかで事前に与えられた教材でプレゼンテーションができるかどうかが試される。記憶のテストは全くない。論点を持ってきちんと説明できるか、表現力が試される。美術や音楽をする人を育てる学科でなく、美術や音楽の鑑賞者を育てる学科があるが、この人たちが結構いろんなところへ羽ばたいている。  大学生位の世代は「表現する」トレーニングが必要だと思う。例えば外国の小学校・中学校の義務教育の中でそのような教育はやっているのか。  例えば、子供達の小学校・中学校の音楽会は保護者が勤務を終わって帰ってくる夜7時から開催する点が日本と違う。アウトリーチのようなイベントも夜行うことで、子供も大人も参加できることが本当の意味での参加型だと思う。  日本だと学校の教員が一般的に浅く広く教えることはできるが、突き詰めた内容のものは少ない。私もスペインやイタリアの学校に勤務していたときは、授業は昼過ぎには終わり、後は勉強したい子は勉強をし、サッカークラブに行きたい子はプロのコーチに習うし、芸術をしたい子は音楽家のところに行ってバイオリンを習ったりと専門的に深くまで教えてもらう。当然テストも口頭試問。  記憶力を試すテストだけではよくない。せっかくのことが無意味に終わってしまわないよう、自分で「探す」能力が大事ということ。アメリカのミネルバ大学はセンセーショナルな大学だと思う。  何かを素材としてそれを取り上げて、子供本人が親、先生、友達同士で話し合い、自分の思いを表現していく時間が大事ということか。  そのとおりである。大学生は一番多感で目的意識を持っている。それが当てはまる年代でもある。イエール大学は先生と生徒が車座になってそういう話をしているが、これができるかできないかで差がつくと思う。  子供をメインに考えた時に、与えられる情報量の違いがある。廣田さんは現在福岡に住んでおられるが、こちらに住んでおられた時と、色々なものの情報量が違うと感じられているのではないか。  圧倒的に違う。福岡市は色々な情報がＬＩＮＥで全部入ってくる。情報誌もポストが満杯になるほど入ってくるので、自分で調べなくてもいろいろなイベント情報を知ることができる。また、色々な子供用のイベントも開催されており、多くの子どもが参加している。ただ、山陽小野田のいいところは空気がきれいなところ。  萩市の三輪龍氣生先生は東京藝術大学でものすごい情報量を身につけて萩に戻り、萩焼にとらわれないアートを確立された方だが、三輪先生のようにおのずから羽ばたく動機をここ山陽小野田市で作ってあげないといけない。この環境があるかないかがまちの実力だと思う。  山陽小野田市も民間も市もそれぞれが考えてイベントをされているが、閉鎖的な感じがする。みんなで助け合って市全体で動く流れができれば、もっと開放的で良い方向に向かうのではないか。福岡市は色々な情報をみんなが共有しているような感じがする。  日本の地方小都市の住民は封建時代の政策のひとつ“長幼の序”が残っていると思う。社会は民主主義国家であるにもかかわらず、民間の活動は“長幼の序”が残っていて、これが足を引っ張っていると思う。色々な催しの際も意見の違いが出てきて非常に残念だと感じる。  山陽小野田市ならではのよい点をいかしつつ先程お話しにあった海外の良い部分をちょっとずつ取り入れていけるとよい。  環境を整えるには時間がかかるが、少しずつでも進めていく必要がある。被害を受けるのは子どもであり、子どもの可能性を摘んでしまう。  その中からぽつぽつと時々すごい子が出てくる。そこから色々な可能性を子供達が感じるだろうし、夢も感じられる大人でいたい。  芸術を届けるアウトリーチを活用し、環境に関わらずすべての人が自然と入れる環境を作ってあげたい。これをなるべくお金をかけずにやっていきたい。  例えば公民館が講座の発表の場だけではなく、優れた芸術活動を行う人達の本物の芸術を紹介するコーナーを作るなどしてもらうといいかもしれない。  キュレーターの育成を考えた方がいいと思う。キュレーターが住み着いてくれる環境が大切。また、芸術アンバサダー制度の発想も必要ではないかと思う。  やはり子供達が何にでも興味が沸かないと食いついてこない。児童館等で小さい時から日常的に芸術に触れる環境が大切と思う。私は「たけのこオーケストラ」の活動をしているが、音楽に触れる機会を子ども達全員に提供することで音楽好きになってくれたらいいなという思いで始めた。それがきっかけで音楽を始めた子どもは大きくなっても色々なことに興味があって、コンサートなどに行くような子に育つのではないかと思う。小さい時からの積み重ねで児童館のような身近な場所に自然に音楽があるような環境が学校の近くにあれば、子どもも行って楽しむことができると思う。  高千帆児童館で月に1回“子供達と歌いましょう”という活動を続けていた。音楽に限らず、絵画を展示するコーナーがあったりと、文化に触れる場を設ければ、子供達は放課後を利用して児童館に行くことができる。児童クラブもそういう場所として活用できるのではないか。  **次第２　拠点としての施設のありかた**  文化会館について、どういう施設であったらいいか、こういう施設にして欲しいなど夢みたいなものでもいいので、ご意見をお願いしたい。  廣田さんは館長を努められた４年間で感じられたこととか、こうあったらよかったと思われたことがあればお願いしたい。  最初行った時はすごく暗い文化会館で、これをどうしたら皆さんが来てくださるかなと色々考えた。素晴らしいホールもあるし、千住真理子さんなどもとても響きが良いと褒めてくださった。私は子どもから大人まで多くの方に足を運んでもらおうと思って、いろんなイベントを開催したところ、初めて来たという方がいらっしゃったり、子どもを対象とした“おんがくであそぼう”に参加した子どもが少し大きくなり上のお姉ちゃんを連れてトイレの場所を教えてあげたりと、和やかな雰囲気だった。施設管理の面では、雨漏りがするなど不安な点があの頃からあったので、早く大規模改修をしていただかないとせっかくの立派なホールが台無しになってしまうのではないか。本当に素敵なホールなので、ずっと残して欲しいと思う。ぜひＷｉ－Ｆｉ環境の整備もお願いしたい。  今年度、ＬＡＮ設備の工事を近々始める。今後利用される際に希望を申し出ていただければ、それに沿うにしたいと思う。  今からの時代、段々必要になってくるのではないか。利用していると時々不便な部分も感じるので、ぜひお願いしたい。  新幹線厚狭駅前で場所も良い。市民はもちろん、県内や福岡からも人を呼べるような環境が整っている。ホールとしても本当に素晴らしいという意見を聞く。以前文化協会で作曲家の青島広志さんのコンサートを企画した際にも、青島さんは施設にものすごく感激されていた。だから、ホールとしてはすごく自慢できるのではないかといつも思う。ただ、公演の性質によっては響き過ぎたりで反響板の調整が必要なこともある。色々と長所短所がありながら、ホールとしてはすごく良いと私は感じている。  長所短所はすごく重要で、先生がおっしゃるようにいい点ばかりとは言えない。ニューヨークのあるオーケストラホールは、すごく良いといわれているが響きすぎる。ニューヨーク交響楽団の為に作ったホールなのに、ニューヨークフィルが別のホールに移りたいと言う。響くから演奏家が気持ち良くなってしまう。良い悪いというのはどこにでもあり、これは一例の話だ。ただ、私はやはりソフト面が大切だと思う。定員750名を集客するイベントを予算上行うことが厳しいと感じる。  今、財団の話をしていく中で他のホールの話にもなるが、文化会館の場合は新幹線の駅も近く、良い内容が提供できれば福岡や広島からも集客できる可能性がある。よく優れた公演を行っているルネッサながとは、定員規模は文化会館とあまり変わらないが、交通アクセスはあまり良くない。しかし、定期的に良い公演を続けていることで、ルネッサ長門は良い公演を行っていると広く浸透している。だから、みんながイベントの情報を求めていくという良い循環になっている。文化会館も良い内容のものを定期的又は一時的にでもやれば、それで意識は定着していくのではないか。  この近くでいうと渡辺翁記念会館はソフト面が非常にいい。ルネッサ長門や川棚の杜もいい。どちらも事業内容がよくて好きなので、よく行く。  私も川棚の杜にはよく行くが、中身が素晴らしい。  いい人を呼ぼうと思ったら、事業費に見合う収入を得ることが必要になるが、それが難しい。原資が少ないので満席になってもペイできない。  雨漏り対策の改修も必要だが、先にペイできる仕組みづくりが必要ではないか。  川棚の杜がどういう仕組みかわからないが、おそらく一定の原資があるかと思う。1,000人以上の客席があるところはいい方が来られるが、750人程度だとどうしても赤字になってしまう。チケットもあまり高いと売れない傾向があり、文化協会も苦労されており、なかなか難しいところがあると感じる。それならチケット代を高くして、県外・市外の人を呼んでくるしかないかなと。色々有名な方も来られたが、助成事業を活用して実施した事業が多く、このようなシステムを変えないとなかなか良い方は来てもらえないだろう。川棚の杜はどのくらい客席があるのか。  300人くらいか。文化会館の小ホールより少し広いホールに自分たちで椅子を並べて使う方式。ペイできる仕組みのひとつとして、私は、ふるさと納税の活用を提案している。市内に住んでいる方もふるさと納税はできる。ふるさと納税の許容額は所得税の8～10％と言われており、その許容額の端数を山陽小野田市に納税するだけで随分違う。例えば、6万8千円ふるさと納税に使う方が5万円ほど米や牛肉を買ったら1万8千円残る。これを山陽小野田市に寄附してもらえば相当な金額になる。私はこれを使わない手はないと思っている。既に京都などでもこの活用はされており、要は自分の税が国税に行くか、市に行くかの違いだけで、この金を集めるだけで、事業費ペイの問題は解決できるのではないか。  市内イベント情報を載せるホームページに、ふるさと納税の情報を載せたらいいかもしれない。  いい案だと思う。私が面白いなと思ったのは、宇部市が彫刻の清掃代をふるさと納税で集めたこと。例えば1,500万円のコンサートの開催経費をふるさと納税で賄えば、市の負担なしでできるかもしれない。このような仕組みを考えることが必要。  今のふるさと納税の集め方は、返礼品の選択肢や申込媒体を増やすことを中心にしている。これからはホームページ等を使って、ふるさと納税で具体的にこんな事業をしませんかという呼びかけをしていく必要がある。  ふるさと納税の仕組みをまち全体で啓蒙したら、この金は集まると思う。音楽だけでなく先ほどから問題になっている子どもの教育の問題で言えば課外授業のサポートなども間違いなくできると思う。60歳程度のＯＢの方に有償ボランティア呼びかけたら協力してくれるはずだ。ぜひ検討されるといいと思う。  今は確定申告も必要なく、役所同士のやりとりで済み、本人の手間はかからないはず。  ふるさと納税を活用して実施した事業を紹介するだけでも違うと思う。皆さんからいただいたお金で実施した事業を紹介したらどうだろうか。  学校から、もっとこういうことをやって欲しい、こういうふうになったら先生の負担も減るし、子供にとってもいいという要望はあるか。  いろいろあるが、現在の勤務地である埴生地区では地域の方がいろいろサポートしてくださっており、このようなサポートが増えると教員の負担が減っていく。  現在、須恵小学校の金管バンドのメンバーをみているが、親御さんは週に3日金管バンドに預ける。子供たちは最初のうちは興味がないが続けているとだんだん興味が出てきて、あるとき1曲演奏できるようになる。私がうれしかったことは、成績の悪かった子供の成績が良くなったと先生から聞いたこと。4年生から1年間何もできなくて5年生になって1対1で指導した。すると1曲演奏できるようになった。それ以降、自分から率先して残って練習するようになった。達成感がその子の意識を変えたということ。こういう１対１の指導が課外授業だとできる。このような課外授業がふるさと納税で実施できれば、先生方は授業に集中できる。文化の話からそれましたが、色々なことに使える原資は私はあると思う。ふるさと納税の使途をもっと具体的に示してもいいかもしれない。  今回テーマごとで3つの分科会を開催しているが、最後にこれだけはどうしても言いたいことがあれば発言をお願いしたい。  神戸のある学校に1日いた際には、昼休みにグラウンドに行く児童もいれば、廊下に座ってギターを弾く子が何人かいた。あの雰囲気がすごくいいなと思って、何とかうちの学校でもやりたいなと思いながら達成できていない。ああいう本当に身近なところで気軽に絵を描いたり楽器を弾いたりという雰囲気が作れるといいなぁと思う。その光景が忘れられない。  そのようなことを相談できるコーディネーターのような人がいたらいいが。  そういう人はいる。私などでも声をかけてもらえればいくらでも紹介しますけど、それはすごく良いアイデアだと思う。  先生でどなたか数人でもいればと思う。音楽好きな先生が廊下で少し楽器を演奏したりと。昔の話だが、ある先生が昼休みになると廊下に座っていた。最初はみんな何？という感じだったけれど、そのうちやんちゃが集まってきた。お前も座れよと声をかけ、そこから人間関係を作っていた。すごく良いなと思った。例えば絵本を読んでいると何を読んでいるのかと集まってくる。学校の方でも地域の方でもいいし、学校の中で意外にできると思う。埴生は地域との連携が強いので、その中に楽器でもされる方がいればそこから始まっていくかもしれない。素晴らしい取組みだと思う。  まず楽器を揃えることが大きなハードルだろうか。  いろいろな人から寝ているギターを集めてくるのはどうか。地域の方の協力を仕掛けていくのもいいかもしれない。楽しみにしている。  ネットメディアみたいなものを活用し、先ほど話のあった市のイベントカレンダーの運営をお願いしたらおもしろいのでは、と感じる。  個人的には、市民館の文化ホールが大好きで、定員450人くらいの距離がとても素敵な距離と感じている。ステージの音が悪いという話もあるが、反響板をつけるとまず違う。あともう1つ欲を言うと上から吊り下げる反響版がついたら絶対大丈夫。演奏家はどんなボロ楽器でもどんな会場でも演奏するから、市民館でコンパクトなコンサートを、文化会館は外から出演者を呼んで来るような大きなコンサートをすると使い分けをした方が良いと思う。市民館は椅子が綺麗になったのでだいぶ座り心地が良くなった。私がイルミネーションコンサートを10年間したときに図書館と市民館を上手に使い分けて利用したが、市民館は市の財産で絶対に使わないといけないと本当に感じた。ぜひスタインウェイピアノも活用して欲しい。あのピアノをどんどん使う方法を考えていかないといけない。あるものを大事にしていくことが大切と思う。  そのとおりと思う。  先日、市内に能楽堂があるという話をしたが、日産化学の上の方に行く途中にある。広さは市民館の団体会議室位の広さくらいで、あの会場を利用した発表会などもある。たしか能楽堂とか能舞台という言い方をしていると思う。  私も行ったことがある。こじんまりとしているが能舞台はちゃんとしている。  人材や施設をもう一度洗いざらいにして一覧を作ってみたらどうか。  きらら交流館でちょっとしたロビーコンサートをしたことがあるが、ここもまた良い。ガラス未来館の一角を使う方法もあるし。私はよく山口市にある車屋さんに行くが、そこの２階は豪華な車の間でピアノを演奏してくれる。そういうコンサートを仕掛けたこともあるが、面白くて雰囲気のある施設をこれからも利用していきたいと思う。  竜王山公園オートキャンプ場の２階もいいし、ほかにもいろいろある。  探せば山陽小野田市内も色々な施設があると思う。以前、富士商の上のところにあった施設でもいろいろなことができてよかった。小野田セメント山手倶楽部なども雰囲気はとても良いので、そういうところを活用して身近にみんなが行ける会場でアウトリーチも兼ねた感じでやっていけたらいいなと思う。子供達にはぜひ良い環境で育って欲しいと思っている。学校は学校できちんとやってらっしゃるけれど、その＋αはみんなでやっていかなきゃいけない。親御さんもとても忙しい日々を過ごしていらっしゃるので、子供達がちょっとホッとできる場所とか、児童クラブ、児童館とか活用してやっていけたらと思う。  廣田さんが館長になられたことで文化会館が変わったと思う。館長の登用の仕方。専門的な部分だから、職員ではなかなか大変だと思う。専門スタッフを要請するなり、配属するなりをお願いしたい。とりあえずは一人でもいいから希望したい。  皆さんから色々な良い意見をいただいた。言われるご意見はごもっともだなと思うことが多く、何か１つでも実現できるように、特に情報の発信の部分、市の行事だけでなく山陽小野田市の文化の発信という部分を、公共、民間問わずに発信できるようなシステムについては早急に取り組んでいきたいと思う。 | |

※キュレーター：博物館や図書館、公文書館のような資料蓄積型文化施設において、施設の収集する資料に関

　　　　する鑑定や研究を行い、学術的専門知識をもって業務の管理監督を行う専門管理職。「学芸員」と訳

　　　　されているが、欧米では施設の企画監督を司る展示企画者のみを呼ぶなど、実情は異なる。

※アンバサダー：「大使」のこと。公式、非公式を問わずにブランドや商品、イベントなどを無償で宣伝広告

　　　　する人。